

救えたはずの命から託された願いを叶えるために ～出会いで未来が変わる・変えられる～

スクールカウンセラー/保護司
元福岡県警察少年ポートセンター
公認心理師 安永 智美

1. はじめに

「ぼくは、生まれてきてよかったのですか？」当時中学2年生男子の言葉です。

私は、これまで県警少年サポートセンター(前職)で、現在は学校現場においてスクールカウンセラーとしていじめや虐待、非行等の子どもの人権を傷つける問題を抱える子ども達と出会いました。今回、子どもの命・未来を守るために私達大人に求められていること、できることは何かについて、当事者の声をお伝えしながら家庭、学校、地域の皆様にご提唱させていただきたいと思います。

2. 救えたはずの命から託された願いを叶えるために

- 言葉に出来ない SOS
- 非行・問題行動「根っこ」とは
- 出会いで未来が変わる・変えられる

3. 虐待、いじめ、非行等の問題を抱えた当事者の声・事例紹介

- 薬物乱用と性虐待事例 「薬物は生きる薬だった」
- いじめ自死事例 「お母さんは長生きしてね」
- 売春と性虐待事例 「あいつの匂いを消したかった」
- 非行少年と虐待事例 「ごみのように捨てられた」

4. 出会った子ども達から学んだこと

- 「許す・信じる・待つ」
- 「出会いは生きるきっかけだった」
- 心の扉を開く鍵「あなたの笑顔がみたい」

5. 多機関連携で子どもを守る

- 情報共有だけでは救えない⇒行動連携へ
- 連携の潤滑油は「相互理解・感謝・リスペクト」
- 連携の隙間を埋めるために必要なこと「勇気・覚悟・熱意」

6. 終わりに

「なぜ、僕の苦しみに気づかないのか」(いじめ自死遺族 母親の手紙より)

今、私たちの目の前にいる子どもたちの中に、言葉にならない心の痛みを一人で抱え、気づいてくれる「大人」を待っている子どもはいないだろうか、他者を傷つけることでしか自分の空虚な心の穴埋めができない子どもはいないだろうか、子どもたちの言葉に出来ない SOS をキャッチできる大人、そして、私のパワーワード(原動力)である「あなたが動かなければ何も変わらない」、行動できる大人が求められています。

今回の研修会を通して、地域の宝であり、未来を担う大切な子供たちを守り、救うための連携・繋がりがより一層深まる機会となれば幸甚です。